編集後記

10 年前、職場の法人の長が交代した。それにより職場環境が変わり、それまで行えてきたことに制約がかかるようになった。日本東洋醫學研究會はそんな環境の中で、産声をあげた。それは“変えられる”という受動的な生き方ではなく、“変えていく”という能動的な生き方を選択した覚悟の証であった。

現在の日本における東洋医学（伝統医学）の位置づけは代替医療　(alternative medicine) であり、ある意味、治療方針を西洋医学（近代医学）に“変えられる”受動的立場といえる。そんな立場から脱却し、東洋医学（伝統医学）が治療方針を“変えていく”、そんな社会を実現できるようにとの思いも込めた。

『内経』の“上医治未病，中医治欲病，下医治已病（上医は病気にさせない、中医は病気になりかかっている人を治す、下医は病気になっている人を治す)”は有名だ。一方で、『千金方』には“上医医国、中医医民、下医医病（上医は国をいやし、中医は人をいやし、下医は病をいやす。)”とあり（注：上医＝一流の医家、中医＝二流の医家、下医＝三流の医家)、人々が暮らす環境、すなわち国のあり方が正しくなければ未病を実現できないことを説いている。

教育制度や医療制度は国家によって作られるもので、真理ではない。したがって、「平和」、「人権」、「平等」そして「健康」を名目にした国を蝕む制度も数多く存在する。

大学を退職して松本鍼灸院と日本伝統医学研究所を開設し、“変えられる”場所から“変えていく”実践の場所で活動できるようになった。

「病をいやし、人をいやし、国をいやす」、そんな上医を目指し、育てる活動をしていきたいと思う。

令和 5 年 12 月吉日

日本東洋醫學研究會会長　　松本　和久

日本東洋醫學研究會誌　第九巻　2023

編集・発行　　日本東洋醫學研究會誌　編集委員会
発行日　　令和 5 年 12 月 25 日
発行者　　日本東洋醫學研究會